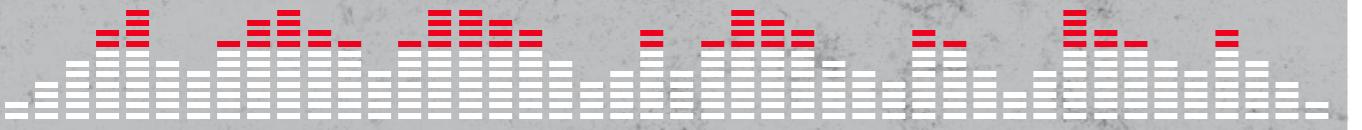


# (( SAPPORO )) BAKUON FILM FESTIVAL 2021

音楽ライブ用音響機材を使用し、大胆かつ繊細な大音響で映画を体感することにより、これまでにない体験を創造する上映イベント、爆音映画祭。樋口泰人（映画・音楽評論家、爆音上映プロデューサー）氏が2004年に開始して以来、日本全国で人気を博しています。3回目となる今回は開催期間を拡大し、傑作SFやミュージカルはもちろん、新奇性に満ちた現代中国の作品から、コロナ禍での無観客ライヴ、東日本大震災後の日本のすがたを問う作品まで、いまを反映したセレクションとなりました。クリエイティブスタジオ向けに1作品ごとに「音」を創り出す。ここだけの唯一無二の上映をお届けします。



10.1  
FRI



上映  
作品

## 01 メッセージ

アカデミー賞音響編集賞受賞！  
観る者の感覚を進化させる、異色のSF感動作。

突如地上に降り立った巨大な宇宙船。謎の知的生命体と意思の疎通を図るために、言語学者のルイーズは物理学者のイアンと共に、「彼ら」が人類に何を伝えようとしているのかを探っていくのだが…。『DUNE/デューン 砂の惑星』の公開を控えるドゥニ・ヴィルヌーヴ監督による、アカデミー賞主要8部門にノミネートされたSF感動作。ゴールデングローブ賞受賞作曲家であり、2018年に急逝した鬼才ヨハン・ヨハンソンの音が、研ぎ澄まされた音響で感覚を刺激します。

監 督:ドゥニ・ヴィルヌーヴ  
2016年／アメリカ／116分／日本語字幕  
提 供:ムービーマネジメントカンパニー

10.2  
SAT



上映  
作品

## 02 レ・ミゼラブル

ヴィクトル・ユーゴーの傑作を壮大なスケールで映画化した、ミュージカルの金字塔。

19年間服役したジャン・バルジャンは、仮出獄後に再び盜みを働いてしまう。そんな彼の罪を見逃してくれた司教の優しさに触れた彼は、心を入れ替える決意をする。やがて運命の女性・ファンテヌから愛娘・コゼットを託されたバルジャンはパリへ向かうが…。文豪ヴィクトル・ユーゴーの傑作を壮大なスケールで映画化した本作は、ほぼすべての曲を撮影の際にライヴ録音し、本編で使用。喝采を浴び続けるミュージカルの金字塔を、息づかいまで繊細にお届けします。

監 督:トム・フーパー  
2012年／イギリス／158分／日本語字幕  
提 供:ムービーマネジメントカンパニー

Profile



【樋口泰人】（映画・音楽評論家、爆音上映プロデューサー）

1957年山梨県生まれ。『キネマ旬報』『エスクァイア』『スティック』『スタジオボイス』など批評やレビューを執筆。90年代は『カイエ・デュ・シネマ・ジャポン』の編集委員、その後編集長を経て、ビデオ、単行本、CDなどを製作・発売するレーベル「boid」を98年に設立した。04年から、東京・吉祥寺パウスシアターにて、音楽用のライヴ音響システムを使用しての爆音上映シリーズを企画・上映。08年より始まった「爆音映画祭」はパウスシアター閉館後も、全国的に展開中。著書に『映画は爆音でささやく』(boid)、『映画とロックンロールにおいてアメリカと合衆国はいかに闘ったか』(青土社)、編書に『ロスト・イン・アメリカ』(デジタルハリウッド)。最近の主な配給作品に『地獄の黙示録劇場公開版』『地球に落ちて来た男』『PARKS パークス』『DARK STAR/H・R・ギガーラの世界』『大和(カリオフォルニア)』『遊星からの物体X(デジタル・リマスター版)』など。

10.2  
SAT



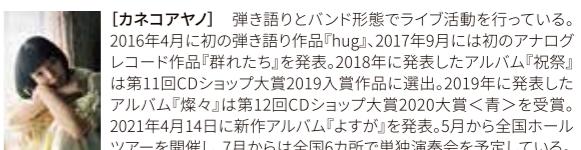
上映  
作品

## 03

カネコアヤノ  
Zeppワンマンショー2021

今だから生まれたカネコアヤノ無観客ライヴ。  
配信時の音響から爆音上映用に再設計！

新型コロナウイルス感染拡大のため予定していたツアーが中止になり、その先がまだ見えぬ中の2月に行われた、カネコアヤノの無観客ライヴ配信。『カネコアヤノ Zeppワンマンショー2021 オンライン』と題されたその反響は大きく、もっと大きな画面でもっと大きな音でという要望に応え、なんと爆音上映用に音響を再設計！自宅で観るのとはまったく違う、今だから生まれた音が、まさに生き物（ライヴ）として会場を包み込むことでしょう。



【カネコアヤノ】弾き語りとバンド形態でライヴ活動を行っている。2016年4月に初の弾き語り作品『Hug』、2017年9月には初のアナログレコード作品『群れたち』を発表。2018年に発表したアルバム『祝祭』は第11回CDショップ大賞2019入賞作品に選出。2019年に発表したアルバム『燐々』は第12回CDショップ大賞2020大賞く青ヶを受賞。2021年4月14日に新作アルバム『よすが』を発表。5月から全国ホールツアーを開催し、7月からは全国6カ所で単独演奏会を予定している。

10.3  
SUN



上映  
作品

## 04

鶩鳥湖の夜

男と女、雨と夜、街と死。  
様式美と新奇性に満ちた音響で送る傑作サスペンス。

2012年、中国南部。再開発から取り残された鶩鳥湖の周辺地域は、ギャングたちの縛り争いが激化していた。揉め事から誤って警官を射殺し、全国に指名手配された裏社会の男ショウは、自身にかけられた報奨金を妻子に残すべく画策。しかし妻の代理という見知らぬ女と行動するうち、後戻りのできない袋小路に迷い込んでいくのだった…。ベルリン国際映画祭金熊賞を受賞した現代中国の気鋭監督、ディアオ・イーナンによる傑作サスペンス。艶やかな様式美と新奇性に満ちた音響により、爆音映画祭の醍醐味と言える、映画に陶酔する体験をお送りします。

10.3  
SUN



上映  
作品

## 05

典座 -TENZO-

富田克也監督来場！上映終了後にアフタートークを行います。

空族×全国曹洞宗青年会。

富田克也最新作は仏教と3.11以後の日本のすがた！

僧侶である倉島隆行は3.11後に被災者となり、仮設住宅で暮らす身の上。瓦礫撤去の仕事や犠牲者の慰靈も続ける日々だが、津波で流された本堂の再建は諦めきれなく…。東日本大震災から10年。『サウダーチ』『バンコクナイト』の映像制作集団・空族が、震災後の現代日本における仏教の意義、信仰とは何かという問いに向かい合う。全国曹洞宗青年会の実際の僧侶たちが演じる本作は、フィクションとドキュメンタリーの枠を超えて驚くべき境地へとすすんでいく。第72回カンヌ国際映画祭の批評家週間「特別招待部門」に選出。



【富田克也】1972年、山梨県生まれ。脚本家・映画監督の相澤虎之助らとともに映像制作集団・空族（くぞく）を率い、「作りたい映画を勝手に作り、勝手に上映する」をモットーに活動。舞台となる土地で実際に生活を営む人たちへ取材を綿密に行い、非職業俳優を積極的にキャスティングすることで、ストリートのリアリティをフィクションに差し込む。寂れゆく日本経済を背景に、肉体労働者、移民、そしてヒップホップをテーマに制作した『サウダーチ』（2011）ではナント三大陸映画祭グランプリ、高崎映画祭最優秀作品賞、毎日映画コンクール優秀作品賞＆監督賞をW受賞など数々の賞に輝いた。タイおよびラオスにて長期滞在制作を行った『バンコクナイト』（2016）は、ロカルノ国際映画祭など世界中の約30の海外映画祭に招待。国内では、第72回「毎日映画コンクール」にて監督賞、音楽賞をW受賞。その年の『キネマ旬報ベスト10』では6位に選出された。そして最新作となる『典座-TENZO-』が、2019年度のカンヌ国際映画祭「特別招待部門」に選出。